

令和7年度 帯広第四中学校 全国体力・運動能力、運動習慣等調査について(結果と考察)

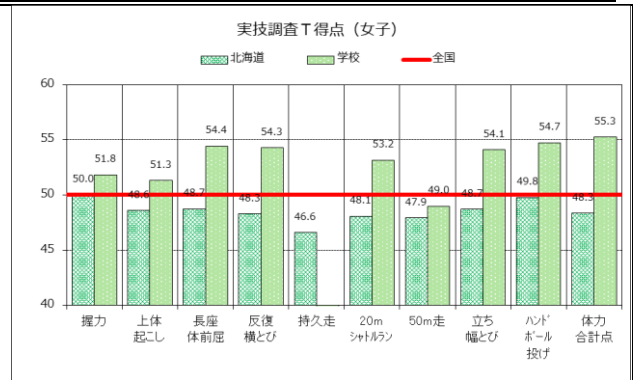
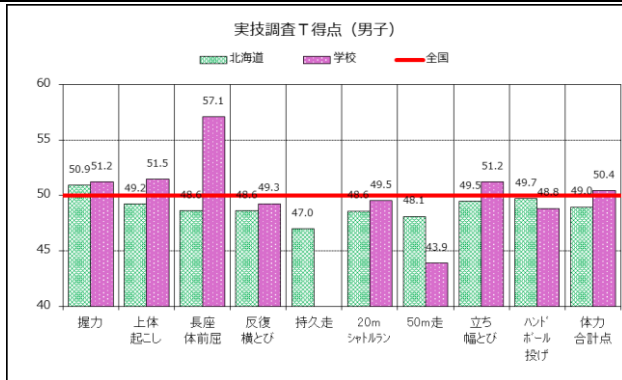
◎ **調査対象** 令和7年度 帯広市立帯広第四中学校 第2学年

◎ **実施時期** 令和7年4月～7月

◎ **体力・運動能力調査結果(実技集計より) ※今年度の全国平均との比較**

中学校 2年男子	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回)	20mシャトル ラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力合計点 (点)
全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	8.00	197.51	20.74	42.20
北海道	29.63	25.61	43.58	50.36	75.24	8.17	195.81	20.57	41.05
令和6年四中	34.11	27.22	48.04	51.41	83.72	7.96	206.40	20.39	45.45
令和7年四中	29.86	27.03	53.22	50.94	77.63	8.57	201.47	20.00	42.68
全国との比較	高い	高い	高い	やや低い	やや低い	低い	高い	やや低い	やや高い

中学校 2年女子	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回)	20mシャトル ラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力合計点 (点)
全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	8.97	166.44	12.43	47.58
北海道	23.17	20.85	45.62	44.40	46.84	9.16	162.75	12.34	45.62
令和6年四中	24.45	22.76	51.42	44.50	49.14	8.74	177.28	12.14	50.86
令和7年四中	24.03	22.51	51.87	49.11	56.82	9.07	178.23	14.49	53.82
分析	高い	高い	高い	高い	高い	やや低い	高い	高い	高い



◎ **体力・運動能力調査結果から分かること**

- 男子は4種目で全国平均を上回り、4種目で全国平均を下回る結果となった。
- 女子は7種目で全国平均を上回り、1種目で全国平均を下回る結果となった。
- 体力合計点は、男女共に全国平均を上回る結果となった。

◎ **体力・運動能力調査結果からの考察**

- 男女ともに「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「立ち幅跳び」の数値が、全国平均を上回る結果となった。特に、長座体前屈で男女共に全国平均を大きく上回った。授業始めの柔軟の効果成果として表れたと考察する。学年全体として、運動が好きな生徒が多く、保健体育の授業への積極性が高い傾向から、良い結果となったと考察する。
- 男女共に、「50m走」の数値が全国平均と比べて低い結果となった。次年度は、敏捷性の運動や、腕の振り方、ピッチとストライドの練習を積極的に導入していく。
- 男女の体力テストの結果の差として、参加している部活動や地域クラブ活動の違いと考える。女子は、部活動に参加している生徒により、全身持久力や敏捷性が育っており全体の記録を向上させた傾向がみられた。男子も全国平均と比べ、結果としては良い傾向のため、授業でのランニングや1時間当たりの運動時間を十分確保し、体力向上と運動の楽しさを味わえる授業を展開していきたい。

◎ 運動習慣調査結果(生徒質問紙集計より)

質問	集計結果	
運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。	<p>男子</p>	<p>女子</p>
保健体育の授業では、進んで学習に参加していますか。	<p>男子</p>	<p>女子</p>
学校の部活動や地域のスポーツクラブに所属していますか。	<p>男子</p>	<p>女子</p>
朝食は、毎日食べますか。(学校が休みの日も含めます)	<p>男子</p>	<p>女子</p>
毎日のくらい寝ていますか。	<p>男子</p>	<p>女子</p>
保健体育の授業は楽しいですか。	<p>男子</p>	<p>女子</p>

◎ 運動習慣調査結果からの考察

- 男女ともに運動が好き、保健体育の授業が楽しいと考える割合が比較的高い。
- 運動部活動やスポーツ地域クラブに所属している生徒は、男子85%、女子73%と、スポーツ地域クラブの受け皿の少なさも背景にはあるが、学校部活動の参加率は全国平均より高い。
- 男女ともに、部活動や地域のスポーツクラブに所属していない1～3割程の生徒への運動習慣の構築を考えていきたい。
- 男女での睡眠時間の差が大きく目立つ。また、男子の方が朝食を食べない日があることがグラフからわかる。規則正しい生活の必要性を共有していくとともに、家庭でも運動習慣をつくっていただけるように協力・連携していきたい。